

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		発達支援ルーム ピースプラント東淀川		公表日		2025年3月1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		療育室は十分な広さを確保しており、更衣室も設けている。	今後も安全点検を継続し、運営する。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童指導員、保育士、障害福祉サービス経験者を常時3人以上配置している。	余裕のある配置数を目標にする。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		必要な場合は介助するようにしており、身体障がい児の方にはエレベーターを完備している店舗のご利用を促している。	利用児に合わせた対応を継続する。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日消毒と換気、掃除をし、空気清浄機も動かしている。遊具や物品等の物の場所に絵カードを置き、片付け場所を明確化している。	清掃や遊具点検を継続し、衛生面や安全面に配慮する。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じてパーティション等でこどもが一人で落ち着ける場所を提供している。	左記の対応を継続する。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		すべての店舗が同じシステム、同じ意図をもって、支援に当たれるように月1度のスタッフ全員でのミーティング等で適宜意見交換を行っている。	他店舗と情報共有や意見の交換を継続して実施する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		11月にアンケートを記入していただいている。評価表は今後活用する予定。毎回保護者の方には見学をして頂いているので情報共有はできています。	今後も継続してアンケートやモニタリングを実施し、保護者との情報共有を欠かさないように行う。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に2回、管理職との面談を行っている。困りごとや悩みがあれば、解消できるように努めている。	職員に合わせて面談の頻度を調整する。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		行政書士の先生に確認を行ってもらっている。	監査用のチェックリストを作成・更新する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に外部講師を招き研修を重ねている。また自主的に外部研修をスタッフが受けに行ける機会も設けている。	外部講師を招いた研修や伝達講習を継続して実施する。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、ホームページにて公表している。	左記の対応を継続する。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		半年に1回、モニタリングを実施している。日々の療育のフィードバックにて保護者の方との情報共有を欠かさないように行っている。	保護者の方の話の聞き取りや情報の共有を実施する。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に全職員が情報共有・会議を行いを行い支援計画を作成している。	非常勤の職員に対しても情報共有を行う。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画を立案し、必要なアクティビティを提供している。	引き続き継続して実施する。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		評価や観察のポイントを外部講師の方からもらい改善している。	職員での話し合いを継続し、療育の質を確保する。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		氷山モデルとICFを参考に、子供に起こっている課題や問題点を統合と解釈し、支援の方向性を定めている。その中で、本人・家族・地域との相互作用を考え、支援内容を検討している。	運動機能やコミュニケーションといった様々な能力の評価や改善案を提供する。	

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		全利用者の指導アプローチをスタッフ全員で共有する会話を毎日、朝の朝礼と業務終わりに実施している。	職員で話し合いの時間を作り立案する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		指導者だけがプログラムを決めず、子どもらの自主性や主体性からプログラムを提供するサービススタイルなので、固定化しないように工夫している。	療育開発やプログラム立案を実施している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		保護者へのアンケート調査や聞き取り調査をもとに個別指導、ペア指導、少人数集団指導を行っている。	保護者からの聞き取りを参考に作成する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		必ずその日の利用する子どもらの指導担当スタッフを振り割り、役割分担を確認している。	今後も職員同士で話す時間を設ける。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		必ず毎日指導スタッフが全スタッフの前で感想、気づき、問題点等を発表し共有化している。	一緒に共有する中で、子どもの成長に繋げる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用実績記録表と併用して一人一人の指導記録を記入している。	記録を確実に記入する。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6ヶ月に1度の割合で聞き取り調査等で保護者との会話の時間を作っている。また、必ず保護者が指導現場に同席されるので、毎回の利用で意見交換を実施している。	情報共有を継続し、作成・立案する。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		現場責任者が参加している。	子どもの情報を普段から職員に共有できるようにする。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要なケースは、役所の職員を交えて担当者会議を設けている。	今後も必要なケースに関して、積極的に相談する。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		相談支援事業所や担当者会議、保護者様との情報共有を行っている。また、他事業所の方や学校の先生にも療育を見学して頂き、地域との連携に努めている。	今後も情報収集・共有をし、理解につなげる。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		上記（質問26）に同じ。	今後も情報収集・共有をし、理解につなげる。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		地域の子ども部会などに参加し、その際に連携や助言などを受けている。今後も情報収集やスキルアップのために参加していきたいと考えている。	ピースプラント以外での情報を仕入れ、支援に繋げる。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		—	療育体験会の実施や他事業所に向けた勉強会などで交流する機会を設けようとしている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		指導者場面に同席されている保護者の方とは、毎回の利用の際に充実した意見交換を行っている。	今後も情報交換を行う。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		運動・スポーツに関する相談だけでなく、運動・スポーツを利用した子どもさんの成長に役立つ情報はお伝えしている。	今度も、必要な情報を伝える。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		館内掲示とともに毎回の契約時に適切に説明、理解を実施している。	不明な点が無いように確認をしながら説明する。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		支援計画書の作成前、保護者へ聞き取りを実施し、子どもや家族の意向を確認している。	左記の対応を継続する。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援計画書が作成したら、必ず説明をし、保護者から同意をもらいサインをいただいている。	左記の対応を継続する。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		療育が終わった後、保護者の方と話す時間を設けている。	保護者の方の悩みに対して、相談・助言の中で支援する。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会と勉強会を実施している。	年間イベントなどで、交流する機会を設けていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		児童発達支援管理者を中心に苦情に対しては即時対応するように徹底している。	即時対応が出来るように現体制を継続する。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		SNSで日々の情報や行事に関して発信している。	保護者の方に情報を開示し、説明する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		確実に施錠できるロッカーに保管している。	施錠忘れが無いように確認する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		毎回の利用時に必ず、保護者との直接との直接会話の時間を作っている。	情報交換の時間を確保する。
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		勉強会や講演会などを随時開催している。	継続して開催する。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		緊急時の対応に関して、フローチャート式のマニュアルを作成し、準じた対応が出来るように職員に情報共有を実施し、6カ月に1度療育の中で訓練を実施している。	左記の対応を継続する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		6カ月に1度療育の時間の中で、避難訓練を実施して、避難に必要な経路の清掃や経路の確保に努めている。	左記の対応を継続する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事前に同伴する保護者の方に確認を行っている。	保護者の方に確認を徹底する。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		基本的におやつ、食事の提供をしていない。	今後そのような機会があれば、アレルギーの有無を確認し、した場合には指示書を提出してもらおう。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、全職員に共有した中で支援を行っている。年間行事に入れ、計画的に実施していく。	左記の対応を継続する。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		毎回の契約時に適切な説明、理解を実施している。	不明な点が無いように保護者の方と確認を取りながら、説明を行っている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ファイリングし、全てのスタッフが閲覧出来るようにしている。	ヒヤリハットを共有し、改善する。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		月に一度の全体ミーティングにて研修を行うなどし、周知している。	全体ミーティングで伝達講習を実施する。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		同伴する保護者がいるので、身体拘束が必要な利用者はいない。	保護者の方に確認を行う。	

公表	児童発達支援事業所における自己評価総括表
----	----------------------

○事業所名	発達支援ルーム ピースプラント東淀川		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日		～ 2024年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32人	(回答者数) 26人
○従業者評価実施期間	2024年 10月 1日		～ 2024年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	マンツーマンの運動療育。	一人一人の発達段階に合わせた、療育プログラムの提供。身体だけでなく、気持ちに寄り添った支援を提供している。	職員間で療育プログラムのフィードバックを今後も積極的に行っていく。
2	様々な職種の職員(保育士、作業療法士、理学療法士)が常駐し、療育を行っている。	情報共有を行いながら、それぞれの視点で評価を行うことで、専門性の高い支援を提供している。	週に一度の社内研修を今度も継続し、職員のスキルアップを目指す。
3	保護者様への支援。	毎療育後、保護者様とコミュニケーションをとる時間を設けている。その際、日々の様子や園での様子等の情報収集も行っている。	必要に応じて、療育時間外での面談(家族支援加算の利用)等も行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子供同士のかかわりが少ない。	個別療育に重きを置いているため、子供同士が関わる機会を多く作れていなかった。	2人組でのタッグ療育、集団療育等を必要に応じて行っていく。
2			
3			

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		発達支援ルーム ピースプラント東淀川2くみ				公表日	2025年 3月 1日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		療育室は十分な広さを確保しており、更衣室も設けている。	今後も安全点検を継続し、運営する。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童指導員、保育士、障害福祉サービス経験者を常時3人以上配置している。	余裕のある配置数を目標にする。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		必要な場合は介助するようにしており、身体障がい児の方にはエレベーターを完備している店舗のご利用を促している。	利用児に合わせた対応を継続する。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日消毒と換気、掃除をし、空気清浄機も動かしている。遊具や物品等の物の場所に絵カードを置き、片付け場所を明確化している。	清掃や遊具点検を継続し、衛生面や安全面に配慮する。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じてパーテーション等でこどもが一人で落ち着ける場所を提供している。	左記の対応を継続する。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		すべての店舗が同じシステム、同じ意図をもって、支援に当たれるように月1度のスタッフ全員でのミーティング等で適宜意見交換を行っている。	他店舗と情報共有や意見の交換を継続して実施する。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		11月にアンケートを記入していただいている。評価表は今後活用する予定。毎回保護者の方には見学をして頂いているので情報共有はできている。	今後も継続してアンケートやモニタリングを実施し、保護者との情報共有を欠かさないように行う。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に2回、管理職との面談を行っている。困りごとや悩みがあれば、解消できるように努めている。	職員に合わせて面談の頻度を調整する。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		行政書士の先生に確認を行ってもらっている。	監査用のチェックリストを作成・更新する。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的な外部講師を招き研修を重ねている。また自主的に外部研修をスタッフが受けに行ける機会も設けている。	外部講師を招いた研修や伝達講習を継続して実施する。			
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、ホームページにて公表している。	左記の対応を継続する。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		半年に1回、モニタリングを実施している。日々の療育のフィードバックにて保護者の方との情報共有を欠かさないように行っている。	保護者の方の話の聞き取りや情報の共有を実施する。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に全職員が情報共有・会議を行いを行い支援計画を作成している。	非常勤の職員に対しても情報共有を行う。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画を立案し、必要なアクティビティを提供している。	引き続き継続して実施する。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		評価や観察のポイントを外部講師の方からもらい改善している。	職員での話し合いを継続し、療育の質を確保する。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		氷山モデルとICFを参考に、子供に起こっている課題や問題点を統合と解釈し、支援の方向性を定めている。その中で、本人・家族・地域との相互作用を考え、支援内容を検討している。	運動機能やコミュニケーションといった様々な能力の評価や改善案を提供する。			

支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		全利用者の指導アプローチをスタッフ全員で共有する会話を毎日、朝の朝礼と業務終わりに実施している。	職員で話し合いの時間を作り立案する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		指導者だけがプログラムを決めず、子どもらの自主性や主体性からプログラムを提供するサービススタイルなので、固定化しないように工夫している。	療育開発やプログラム立案を実施している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		保護者へのアンケート調査や聞き取り調査をもとに個別指導、ペア指導、少人数集団指導を行っている。	保護者からの聞き取りを参考に作成する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		必ずその日の利用する子どもらの指導担当スタッフを振り割り、役割分担を確認している。	今後も職員同士で話す時間を設ける。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		必ず毎日指導スタッフが全スタッフの前で感想、気づき、問題点等を発表し共有化している。	一緒に共有する中で、子どもの成長に繋げる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用実績記録表と併用して一人一人の指導記録を記入している。	記録を確実に記入する。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6ヶ月に1度の割合で聞き取り調査等で保護者との会話の時間を作っている。また、必ず保護者が指導現場に同席されるので、毎回の利用で意見交換を実施している。	情報共有を継続し、作成・立案する。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		現場責任者が参加している。	子どもの情報を普段から職員に共有できるようにする。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要なケースは、役所の職員を交えて担当者会議を設けている。	今後も必要なケースに関して、積極的に相談する。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		相談支援事業所や担当者会議、保護者様との情報共有を行っている。また、他事業所の方や学校の先生にも療育を見学して頂き、地域との連携に努めている。	今後も情報収集・共有をし、理解につなげる。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		上記（質問26）に同じ。	今後も情報収集・共有をし、理解につなげる。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		地域の子ども部会などに参加し、その際に連携や助言などを受けている。今後も情報収集やスキルアップのために参加していきたいと考えている。	ピースプラント以外での情報を仕入れ、支援に繋げる。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	—	療育体験会の実施や他事業所に向けた勉強会などで交流する機会を設けようとしている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		指導者場面に同席されている保護者の方とは、毎回の利用の際に充実した意見交換を行っている。	今後も情報交換を行う。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		運動・スポーツに関する相談だけでなく、運動・スポーツを利用した子どもさんの成長に役立つ情報はお伝えしている。	今度も、必要な情報を伝える。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		館内掲示とともに毎回の契約時に適切に説明、理解を実施している。	不明な点が無いように確認をしながら説明する。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		支援計画書の作成前、保護者へ聞き取りを実施し、子どもや家族の意向を確認している。	左記の対応を継続する。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援計画書が作成したら、必ず説明をし、保護者から同意をもらいサインをいただいている。	左記の対応を継続する。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		療育が終わった後、保護者の方と話す時間を設けている。	保護者の方悩みに対して、相談・助言の中で支援する。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会と勉強会を実施している。	年間イベントなどで、交流する機会を設けていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		児童発達支援管理者を中心に苦情に対しては即時対応するように徹底している。	即時対応が出来るように現体制を継続する。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		SNSで日々の情報や行事に関して発信している。	保護者の方に情報を開示し、説明する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		確実に施錠できるロッカーに保管している。	施錠忘れが無いように確認する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		毎回の利用時に必ず、保護者との直接との直接会話の時間を作っている。	情報交換の時間を確保する。
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		勉強会や講演会などを随時開催している。	継続して開催する。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		緊急時の対応に関して、フローチャート式のマニュアルを作成し、準じた対応が出来るように職員に情報共有を実施し、6カ月に1度療育の中で訓練を実施している。	左記の対応を継続する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		6カ月に1度療育の時間の中で、避難訓練を実施して、避難に必要な経路の清掃や経路の確保に努めている。	左記の対応を継続する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事前に同伴する保護者の方に確認を行っている。	保護者の方に確認を徹底する。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		基本的におやつ、食事の提供をしていない。	今後そのような機会があれば、アレルギーの有無を確認し、した場合には指示書を提出してもらう。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、全職員に共有した中で支援を行っている。年間行事に入れ、計画的に実施していく。	左記の対応を継続する。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		毎回の契約時に適切な説明、理解を実施している。	不明な点が無いように保護者の方と確認を取りながら、説明を行っている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ファイリングし、全てのスタッフが閲覧出来るようにしている。	ヒヤリハットを共有し、改善する。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		月に一度の全体ミーティングにて研修を行うなどし、周知している。	全体ミーティングで伝達講習を実施する。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		同伴する保護者がいるので、身体拘束が必要な利用者はいない。	保護者の方に確認を行う。	

公表	児童発達支援事業所における自己評価総括表
----	----------------------

○事業所名	発達支援ルーム ピースプラント東淀川2くみ		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日		～ 2024年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23人	(回答者数) 22人
○従業者評価実施期間	2024年 10月 1日		～ 2024年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	マンツーマンの運動療育。	一人一人の発達段階に合わせた、療育プログラムの提供。 身体だけでなく、気持ちに寄り添った支援を提供している。	職員間で療育プログラムのフィードバックを今後も積極的に行っていく。
2	様々な職種の職員(保育士、作業療法士、理学療法士)が常駐し、療育を行っている。	情報共有を行いながら、それぞれの視点で評価を行うことで、専門性の高い支援を提供している。	週に一度の社内研修を今度も継続し、職員のスキルアップを目指す。
3	保護者様への支援。	毎療育後、保護者様とコミュニケーションをとる時間を設けている。その際、日々の様子や園での様子等の情報収集も行っている。	必要に応じて、療育時間外での面談(家族支援加算の利用)等も行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子供同士のかかわりが少ない。	個別療育に重きを置いているため、子供同士が関わる機会を多く作れていなかった。	2人組でのタッグ療育、集団療育等を必要に応じて行っていく。
2			
3			